

◆優良賞◆

未来を選ぶ

松が丘小学校 六年

西田 乃彩

「投票率は五八・五一%でした。」

これは七月に見たニュースでキャスターが言っていた言葉です。私は、国の大きなことを決めるのに、どうして投票をしていない人が多いのだろうと、大きな疑問を感じました。

日本の国政選挙の投票率は、長い間六割に届いていないそうです。せっかく選挙権があるのに、たくさんの人が投票に行っていないのです。日本は国民主権の国です。しかし、この投票率で、本当に国民の一人一人が政治の主役と言えるのでしょうか。

私は学校の代表委員会で議長をやったことがあります。そのときに、意見を求めても、一部の代表以外からは、なかなか意見が出てきませんでした。学校の大事なことを、一部の意見で決めてしまつては、よくないのではないかと、悩んだ経験を思い出しました。

また、「若い世代の投票率が低い」ということも知り、問題を感じました。学校で、ずっと続けていくルールを決めるとき、高学年の意見だけで決めてしまうと、下の学年が後で困ることになるかもしれません。

そこで私は、「若い世代の人にもふくめて、全体的に投票率を上げること」が大切だと思い、アイディアを考えました。

まず、投票所に「子ども投票箱」を設置して、投票体験ができるように

してほしいです。投票所の立会人をしていた私の祖母は、「親子連れはいたけれど少なかったよ。」

と言っていました。ある報道では、「子どものころ、親と一緒に投票に行ったことがある若者世代の投票率が、そうではない若者に比べ、二〇%高い」というデータが発表されていました。子どもも体験ができるなら、家族と一緒に投票所に行こうと思う人も増えるのではないのでしょうか。さらに、子どもが好きな物事を選んで投票することで、子どもに必要な公共施設や政策のヒントも得られるかもしれません。私はいつも親と一緒に投票所に行っていますが、このような取組があったらもっと行きたくなります。

次に、「子どもから親へ、投票お願いメッセージを書く」というものです。学校や地域で、子ども達が手紙やポスターをつくって親や周りの大人に「未来を選ぶ手助けをしてください」と伝えるのです。大人が忙しくて忘れてしまいうようなときでも、子どもからの声が大人の心を動かすのではないのでしょうか。

私は小学生なので、投票はできません。だから、ニュースを見たり、家族が政治について話しているのを聞いたりしていると、投票ができる大人はもっと真剣に考えて参加してほしいと思います。

私にできることは限られているけれど、選挙権がある人に思いを伝えることはできます。国の未来は、私たち子どもの未来でもあるから、これからも自分の気持ちを大切にして、周りの人達に伝えていきたいです。